

2014（平成26）年4月8日

保護者の皆様へ

奈良女子大学附属中等教育学校
学校長 高田 将志

学校からのお知らせ

春陽の候 皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今春卒業した生徒たちは、本校での学びを終え、それぞれの希望の扉を開く鍵を手に入れて、新たな道へと巣立ってまいりました。また、4月9日には120名の初々しい新入生を迎え、新たな学校生活がスタートします。

さて、本年は昨年度に引き続き、学校の施設設備の充実として、空調機の更新工事を実施する第Ⅲ期（完成年度）に当たります。北館の準備室及び管理棟の空調機工事を実施する予定で現在計画を進めています。

また、SSHもⅡ期5年目を迎え、最終年の締めくくりとともに、次期研究指定に向けた検討を始めてまいります。本校には、国際交流事業として、「YES for ESD」（高校生による国際会議）と「ScAN」（SSH海外連携）が併存しており、今後の国際交流事業のあり方を含めて検討を進めます。7月には「YES for ESD」がフィリピンで開催され、8月にはSSHサイエンスキャンプ「ScAN」を本校がホスト校となり奈良女子大学で開催することになります。保護者の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

来たる4月25日のPTA総会に先立ちまして、下記の通り、いくつか連絡させていただきます。

1 空調機の新設・更新について

今年度は、空調機の新設・更新工事の完成年度となります。2012年度より、南館・北館の空調機の新設及び更新の工事を進めてきました。ひとえに皆様からいただいた協力金等によるご支援があったからこそ実現したことと感謝申し上げます。

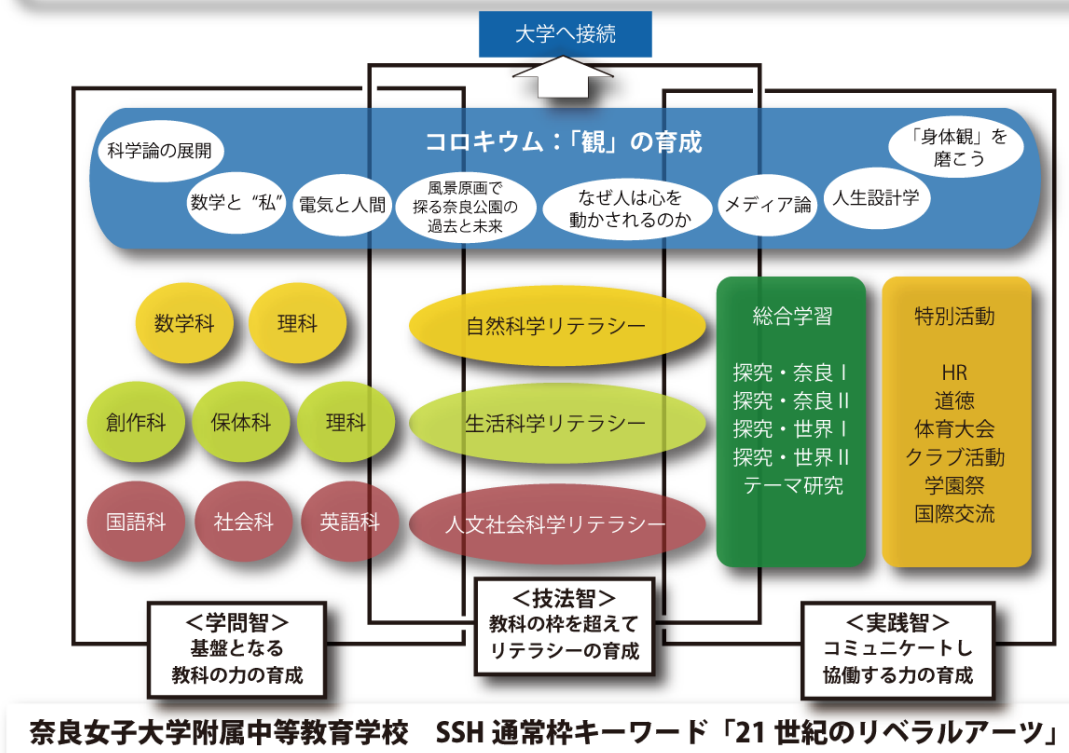
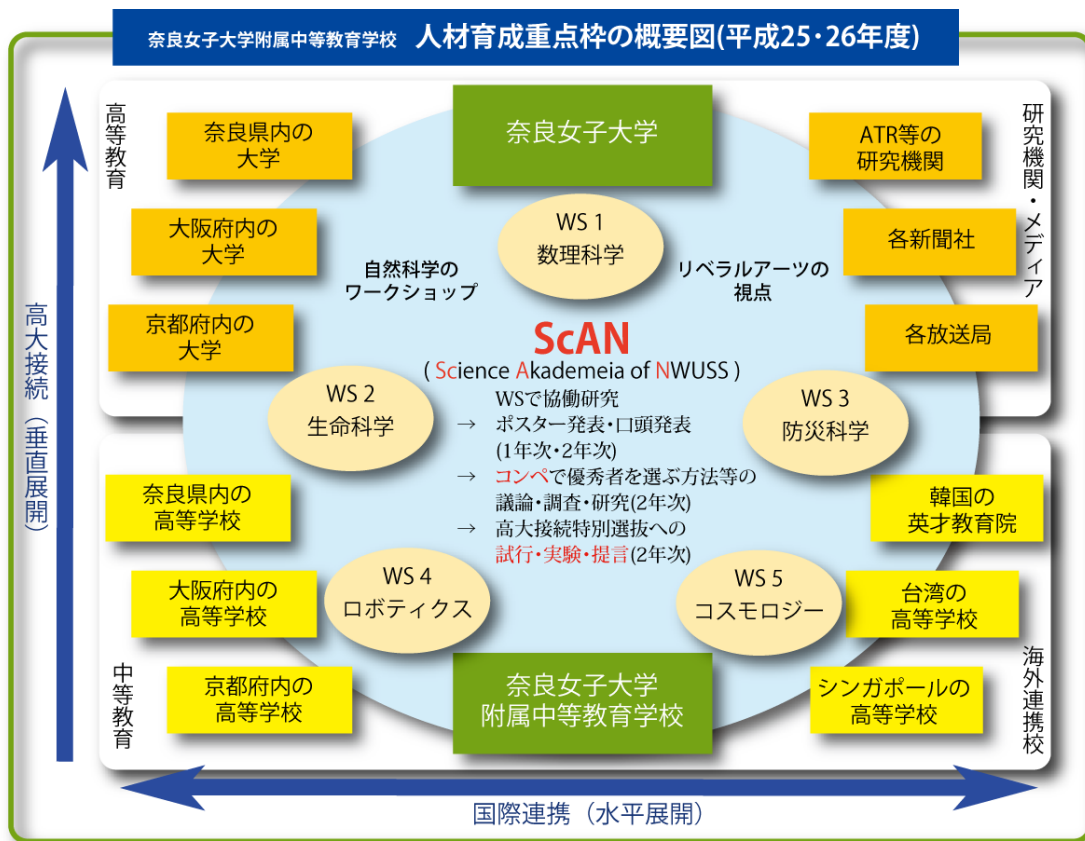
本年は、第Ⅲ期工事として、北館の準備室及び管理棟の空調機更新工事を実施する予定です。現在、大学施設企画課の協力のもと、夏季休業中に工事を完了する予定で計画を進めています。工事計画がわかり次第お知らせし、生徒の安全確保を最優先にして、教育活動に支障がないように配慮して進めてまいります。

2 研究開発学校として

(1) Ⅱ期SSH指定の5年目、科学技術人材育成重点枠に継続指定

2010年度から5年間のSSH指定を受け、本年がⅡ期目の5年次（最終年次）となります。さらに、「科学技術人材育成重点枠」に昨年度から引き続いて指定を受けて研究することになっています。

昨年同様、8/17（日）～8/23（土）の間、奈良女子大学の施設を借りて、「ScAN」（Science Akademeia of NWUSS）というサイエンスキャンプのプログラムを実施します。韓国・台湾・シンガポールの生徒たちが日本へ来たときには、そのホストを皆様をお願いすることになります。後日、お願いの文書を配布いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。



(2) ユネスコスクールとして

昨年度は、「YES for ESD」(Youth and Educators' Summit for Education for Sustainable Development)を本校にて開催しました。海外の生徒を受け入れていただいたご家庭にはこ

の場を借りて御礼申し上げます。

本年は、7/7（月）～7/12（土）の6日間、フィリピンにて開催されます。5年生を派遣することに決まっています。

ユネスコスクールとは、1953年にASPnet（Associated Schools Project Network）として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究する共同体として発足しています。本校にとっては、ポスト「グローバルクラスルーム（GC）」（GC：1997年～2008年まで実施）としての国際交流の取組に位置づけてきました。今後もユネスコスクールとして、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）への取組を継続していくことには変わりはありません。

(3) 次期研究開発の検討について

SSH研究指定は、2005年度に第Ⅰ期5年の指定を受け、さらに2010年度に第Ⅱ期5年の指定を受けました。この間、本校理数の教育・研究環境は飛躍的に発展してきました。また、サイエンス研究会を中心とした取組によって、各種学会等で多くの賞を獲得してきました。

これまでの実績を基に、今後も本校が研究開発学校として、全国の先導的な研究開発の拠点であり続けるために、SSH2期10年間の研究開発の次なる発展を目指して、本年度は検討を進めてまいります。

さらに、国際交流事業は、1997年度から始めた「GC」（Global Classroom）の後継である「YES for ESD」と、2008年度から始めたSSHのISSSを受け継ぐ「ScAN」という2つの国際交流事業が併存しています。毎年、同窓会（柳汀会）の支援を受けて事業を展開してきましたが、学校として継続性のある取組とするために、国際交流の枠組みを再構築することが課題となります。

本年度は、上記の研究開発の新たな枠組みを構想し、2015年度へと継承していくべく、抜本的な改革に取り組んでいきます。

3 東日本大震災からの復興・復旧に向けて

2011年3月11日に東日本を襲った巨大地震と津波により多くの尊い命が奪われ、今なお多くの人々が苦難の生活を余儀なくされています。震災からの復興に向けて、さまざまな支援活動を行ってきました。その取組の一つが「OECD東北スクール」の活動です。

(1) OECD東北スクールについて

「OECD東北スクール」とは、OECD（Organisation for Economic Co-operation and Development）教育局が東日本大震災により被害を受けた子どもたちのやる気をひきだすため、モチベーションを高める効果的な学習法を実施するプロジェクトのことです。プロジェクトのゴールは、2014年8月にフランス・パリで、東北の魅力をアピールするためのイベントを自ら企画・実行するところにあります。

本校の役割は、このプロジェクトを実現するために、エンパワメント・パートナーとして参加協力していくことです。すでに3月27日には奈良女子大学記念館において、復興支援イベント「被災地を忘れない～復興に向かって～」を実施し、多くの参加者から取組への賛辞をいただきました。今後は、8月30日31日に開催される「東北復幸祭 in PARIS」において、展示するオブジェ製作に取り組むとともに、2万人のメッセージカード収集・作成に取り組みます。皆様のご協力ご支援のほど、よろしくお願い致します。

(2) 「地球のステージ」の開催について

地球のステージとは、1996年から始まった「世界の子どもたちに、映像と音楽で近づこう」というテーマで企画された開発教育系プログラムです。ライブと音楽演奏、大画面の映像・スライド上映、そして医師桑山紀彦さんの語りを組み合わせた、まったく新しいタイプのコンサート・ステージです。桑山さん自身も宮城県名取市で被災し、震災直後から被災者の心のケアに取り組んでこられました。

本年も10月24日(金)に「地球のステージ」を開催する予定でいます。保護者の皆様にも多くの参加をいただきたいと思いますと考えております。

4 高大連携特別選抜と進路状況

(1) 奈良女子大学との連携

奈良女子大学と本校は、平成20年度より「男女共同参画社会をリードする女性人材の育成を目指す高大連携特別教育プログラム」を実施してきました。さらに平成21年度より、同プログラムを履修した附属中等教育学校生(女子)を対象とする「高大連携特別教育プログラムに基づく特別選抜」を実施しています。2013年度は6名の生徒が、奈良女子大学に進学しています。なお、大学の改組に伴い、現在の6年生から定員が6名から7名に増加しました。

(2) 2014年春卒業生の進路状況

今春の進路結果についてお知らせします。

国公立大学合格者はのべ、81名(現役58名、過年度生23名)でした。直近の過去10年間と比較して、現役合格者数が大幅に増加しました。

04合格者数	05合格者数	06合格者数	07合格者数	08合格者数	09合格者数	10合格者数	11合格者数	12合格者数	13合格者数	14合格者数
56(28)	71(15)	57(18)	50(17)	59(21)	57(15)	65(20)	60(14)	59(14)	61(16)	81(23)

現役合格者の内訳は、大阪市立大学9名、奈良女子大学7名、大阪大学6名、京都工芸繊維大学4名、京都大学3名、大阪府立大学3名、神戸大学3名、横浜国立大学2名、京都教育大学2名、三重大学2名、奈良県立大学2名、防衛大学校、徳島大学、金沢大学、信州大学、東北大学、九州大学、島根大学、岡山大学、京都市立芸術大学、奈良教育大学、大阪教育大学、和歌山大学、奈良県立医科大学、首都大学、滋賀県立大学各1名となっています。

今年度の結果は、ここ数年続いている「国公立志向」「地元志向」「現役志向」の表れだと言えますが、15年度からのセンター入試の変更を見据え、現役志向がさらに強まったと考えられます。とはいえ、国公立大学合格者の増加は、本校での学習を大切に、早々に進学先が確保できる推薦入試に安易に流れず、国公立一般入試に対して、最後まで粘り強く努力した成果の表れだと評価しています。

(詳細は、5月には3年生以上に配布予定の「フォルトナ(進路のしおり)」をご参照下さい。)

5 生協支援について

本校生協食堂は、2002年に総合教育棟が完成した時、生徒・保護者の要望によって開業しました。開業後10年以上経過し、機材の更新等が必要となっています。生協委員会や生協理事会において経営の効率化を図り、営業収支改善の経営努力を続けていますが、生協食堂を存続させるためのご支援ご協力を今後ともお願い致します。